

新東消防署 工事風景

○ 完成予想図



○ 令和7年（2025年）5月12日撮影 【着工前】



新東消防署の建設予定地（東区北33条東18丁目）の写真です。
東区土木センターの隣の敷地となります。

○ 令和7年（2025年）6月23日撮影 【着工前】



工事用の囲いが行われ、いよいよ工事が始まる雰囲気

○ 令和7年（2025年）7月31日撮影 【杭工事】

💡 杭工事とは 💡

杭工事とは、建物が傾かないように地盤に杭を打ち込んで、建物の重さを支える地盤改良工事のことです。



杭工事が始まりました。（※ 敷地全景をパノラマモードで撮影）



大きな重機で杭が打ち込まれていきます。

○ 令和7年8月18日撮影 【土工事】

💡 土工事とは 💡

土工事とは、建物の基礎をつくるために地面を掘り下げる工程のことです。



杭工事が終わり土工事へと移行しました！



重機を使って掘り出し、大型トラックでの搬出が始まりました。



基礎工事に向けて準備が整ってきました。

○ 令和7年9月3日撮影 【基礎配筋工事前】



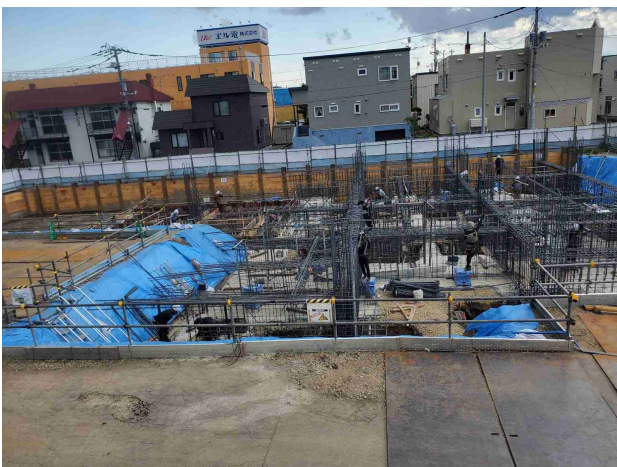
○ 令和7年9月6日撮影 【基礎配筋工事】

💡 基礎配筋工事とは 💡

基礎配筋工事とは、建物の基礎部分に鉄筋を設計図通りに配置する工事で、建物の安全性と耐久性を高めるために行う工事です。



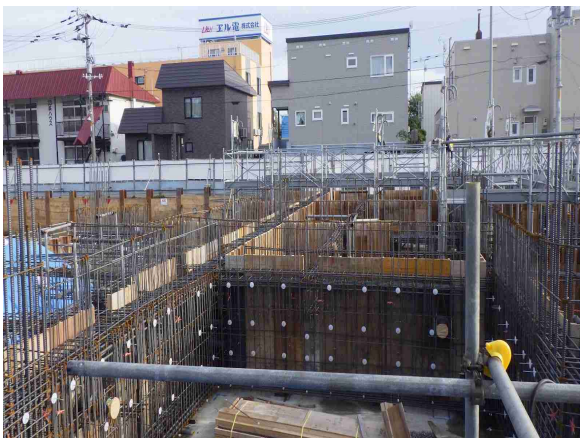
基礎配筋工事へと移行しました！



○ 令和7年9月17日撮影 【基礎型枠工事】

💡 基礎型枠工事とは 💡

基礎型枠工事とは、建物の基礎を作る工程の一部で、コンクリートを流し込むための「型」を組み立てる工事です。



○ 令和7年10月1日撮影 【鉄筋工事】

💡 鉄筋工事とは 💡

鉄筋工事とは、コンクリート構造物の中に「骨組み」となる鉄筋を入れて、建物を補強し、強度を高めるために行われる工事です。

鉄筋は、コンクリートの弱点である引張力の弱さを補い、建物の強度と耐久性に欠かせない重要な役割を担っています。



「後打ち腰壁配筋」が始まってますね！

💡 後打ち腰壁配筋とは 💡

コンクリートを打設した後に、腰壁の内部に鉄筋を配置・補強する工法です。腰壁とは床から腰の高さまで設置される壁のことで、後から鉄筋を配筋することで、強度と耐久性を向上することができます。

○ 令和7年10月15日撮影 【スラブ配筋工事】 【外周埋め戻し】

💡 スラブ配筋とは 💡

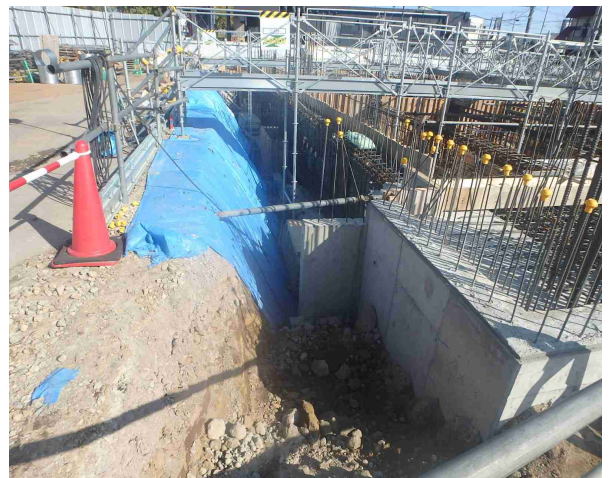
スラブ配筋とは、鉄筋コンクリート造の床に設置する鉄筋のことです。スラブは四方を梁に囲まれており、地震などが発生した時に水平力を柱や梁に順々に伝搬させる役割があり、建物の耐震性・耐久性向上に不可欠なものになります。



緻密な配筋ですね！しっかり支えてくれそうです。

💡 外周埋め戻しとは 💡

基礎工事などが完了した後に、建物の外周部の掘削した部分に土を戻し、転圧（突き固め）して元に戻す作業のことを言います。



白枠で囲った部分が埋め戻しされたところになります。

埋め戻しの際は、50cmぐらいの厚さで土を入れて締め固め、また土を入れて締め固めるという作業を繰り返します。そうすることで沈まない強固な状態を作り出します。

きれいに埋め戻されてますね。

こちらも「外周埋め戻し」が始まりそうな予感です。

○ 令和7年11月6日撮影 【スラブコンクリート打設工事】 【スラブ配筋工事】

💡 スラブコンクリート打設とは 💡

鉄筋で組んだスラブ配筋にコンクリートを流し込んで鉄筋と一体化させる工事で、建物を支える重要な役割を担っています。

スラブコンクリート打設が終了した部分（ここが正面玄関になるのかな?!）



スラブ配筋工事を行っている部分（車庫になる部分かな?!）



